

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

住所	千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11階
管理機関名	千葉市教育委員会
代表者名	磯野 和美

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
学校長名	伊澤 浩二
類型	グローバル型

3 研究開発名

2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成

4 研究開発概要

探究活動『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』、国際交流、海外研修、英語ディベート授業、グローバル講演会、グローバル企業訪問等により、グローバルな視点を持った課題解決能力を身に付けさせ、持続可能な地域社会を創生する人材を育成する。

「総合的な探究の時間（各学年1単位）」において、『稲高生による千葉市創生プロジェクト（1年）』及び『SDGsリサーチプロジェクト（2・3年）』という探究活動を研究開発する。

探究活動を計画するにあたっては、スーパーグローバル大学（SGU）として採択された千葉大学の国際教養学部をはじめ、コンソーシアムを構成する各機関と連携して、実施内容を構築する。

研究開発にあたっては、探究活動に必要な基礎資料やデータの提供、市の政策担当者や市長と討論する機会や政策を実践する場を設定する。また、本事業を展開するにあたっては、市内大学（千葉大学・神田外語大学・東京情報大学・敬愛大学）、企業（SMBC日興証券株式会社）、千葉市内の各機関（株式会社千葉経済開発公社・社会福祉法人千葉市社会福祉協議会・

千葉市を美しくする会等)との連携・協力のもと、コンソーシアムを構築して本事業を実施する。

探究活動を充実させるため、幅広い国際交流、生徒の4割以上(2年生320名中140名)が参加する海外研修、全校で実施している英語ディベート授業、世界で活躍する講師を招いてのグローバル講演会、SDGsに積極的に取り組むグローバル企業への訪問等を実施する。

高大連携協定に基づく大学授業の受講について、千葉大学、神田外語大学において、地域連携や国際理解に関する授業を受け、稲毛高等学校の卒業に必要な単位として認定する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
藤川 大祐	千葉大学教育学部・副学部長	昨年度からの継続
長田 厚樹	神田外語大学事務局長補佐	昨年度からの継続
岩崎 久美子	放送大学教養学部・教授	昨年度からの継続
曾我部 穰	千葉市美浜区役所・区長	昨年度からの継続
藤井 剛	明治大学文学部・特任教授	昨年度からの継続

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
千葉市立稲毛高等学校・附属中学校	伊澤 浩二
千葉市	神谷 俊一
千葉市教育委員会	磯野 和美
千葉大学国際教養学部	小澤 弘明
神田外語大学	宮内 孝久
東京情報大学	鈴木 昌治
敬愛大学	三幣 利夫
株式会社千葉経済開発公社	志村 隆
社会福祉法人千葉市社会福祉協議会	竹川 幸夫
千葉市を美しくする会	飯森 幸弘
SMB C日興証券株式会社	清水 喜彦

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	若井 たかみ	元 千葉市国際交流協会・事務局長補佐	都度依頼し謝礼支払い
地域協働学習支援員	藤森 孝幸	敬愛大学地域連携センター・室長	都度依頼

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム 組織												
コンソーシアム 各団体訪問		←→										
グローバル企業 訪問									1 回			1 回
第1学年「総合 的な探究の時 間」成果発表会							指 導 助 言	指 導 助 言	指 導 助 言			
第2学年「総合 的な学習の時 間」成果発表会								指 導 助 言				
地域協働学習実 施支援員	←	連絡調 整					指 導 助 言 総合的な探究の時間 成果発表会	指 導 助 言 総合的な探究の時間 成果発表会	指 導 助 言 総合的な探究の時間 成果発表会 グローバル企業訪問	→		

(2) 実績の説明

①管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成

・コンソーシアムの構成団体

千葉市、千葉市教育委員会、千葉大学国際教養学部、神田外語大学、東京情報大学、敬愛大学、株式会社千葉経済開発公社、社会福祉法人千葉市社会福祉協議会、千葉市を美しくする会、SMBC日興証券株式会社

・活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年4月1日	コンソーシアムを組織 ・昨年度からの継続依頼
令和3年5月～6月	コンソーシアム各団体への協力依頼 ・本事業の説明、千葉市立稲毛高等学校・附属中学校の取組の説明、コンソーシアムとして支援の依頼
令和3年10月12日	第1学年生徒 「総合的な探究の時間」中間発表会指導・助言

	<ul style="list-style-type: none"> ・敬愛大学地域連携センター長 藤森 孝幸 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 米田 紘康 氏 ・神田外語大学事務局長補佐 長田 厚樹 氏 ・神田外語大学グローバルリベラルアーツ学部教授 石井 雅章 氏 ・神田外語大学外国語学部准教授 田島 慎朗 氏 ・東京情報大学総合情報学科准教授 マッキン・ケネスジェームス 氏 ・東京情報大学助教 河野 義広 氏 ・千葉大学大学院国際学術研究院准教授 小林 聡子 氏 ・千葉大学法政経学部学生 北川 颯太 氏 (本校卒業生)
令和3年11月19日	<p>第2学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (異文化理解の部) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学副学長、大学院国際学術研究院長、国際教養学部長 小澤 弘明 氏 ・神田外語大学アカデミックサクセスセンター講師 竹内 香織 氏
令和3年11月30日	<p>第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (クラス発表) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬愛大学地域連携センターセンター長 藤森 孝幸 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 米田 紘康 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 佐竹 恒彦 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 村上 翔一 氏 ・放送大学教養学部教授 岩崎 久美子 氏 ・神田外語大学事務局長補佐 長田 厚樹 氏 ・神田外語大学グローバルリベラルアーツ学部教授 石井 雅章 氏 ・神田外語大学外国語学部准教授 田島 慎朗 氏 ・千葉大学大学院国際学術研究院助教 田島 翔太 氏 ・明治大学特任教授 藤井 剛 氏 ・東京情報大学総合情報学科准教授 マッキン・ケネスジェームス 様 ・東京情報大学助教 河野 義広 氏
令和3年12月21日	<p>第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (学年発表) 指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬愛大学経済学部准教授 米田 紘康 氏 ・敬愛大学経済学部准教授 村上 翔一 氏 ・敬愛大学地域連携センター長 藤森 孝幸 氏 ・神田外語大学事務局長補佐 長田 厚樹 氏

	<ul style="list-style-type: none"> ・神田外語大学グローバルリベラルアーツ学部教授 石井 雅章 氏 ・神田外語大学外国語学部准教授 田島 慎朗 氏 ・千葉大学教育学部副学部長 藤川 大祐 氏 ・千葉大学大学院国際学術研究院助教 田島 翔太 氏 ・放送大学教養学部教授 岩崎 久美子 氏 ・千葉大学法政経学部学生 北川 颯太 氏 (本校卒業生)
令和3年12月23日	グローバル企業訪問 ・敬愛大学の協力により、生徒等が成田国際空港株式会社を訪問
令和4年1月18日	千葉市長プレゼンテーション ・千葉市長 神谷 俊一 氏
令和4年3月24日	グローバル企業訪問 ・オンラインで生徒等でSMB C日興証券株式会社の社員の方々と交流を行う。

②カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

<カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザー>

- ・指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け
元 千葉市国際交流協会事務局長補佐 若井 たかみ 氏 (都度依頼し謝礼支払い)
- ・活動日程・活動内容
海外研修実施に当たり、生徒・教職員に対し講話を行う。

活動日程	活動内容
令和4年3月 (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)	生徒・教職員等に対する講話の実施

<地域協働学習実施支援員>

- ・指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け
敬愛大学地域連携センター室長 藤森 孝幸 氏 (都度依頼)
- ・実施日程・実施内容

日程	内容
令和3年6月2日	敬愛大学において、学長・副学長等との協議設定 ・令和3年度事業における活動計画について協議
令和3年10月12日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (中間発表) 指導・助言
令和3年11月30日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (クラス発表) 指導・助言
令和3年12月21日	第1学年生徒「総合的な探究の時間」成果発表会 (学年発表) 指導・助言

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

・事業1 「稲高生による千葉市創生プロジェクト」

第1学年の4月から12月にかけて、第1学年の生徒が身近な千葉市を教材とし課題設定を行い、フィールドワークを含む調査活動を経てその解決策を提言する活動を行った。本年度は昨年度の反省を受け、1回目のフィールドワーク調査を実施してから中間発表を行い、秋に2回目のフィールドワーク調査を行うという日程で計画を立てた。そのため、令和3年7月13日に、千葉市市長部局・千葉市教育委員会の協力のもと、生徒が千葉市内でフィールドワークを行い、探究活動での疑問点等を確認した。しかし、8月以降は新型コロナウイルスの感染症拡大により、本校は9月中オンライン授業と対面授業のハイブリッド授業になるなど、プロジェクトに関する日程も大幅な変更を余儀なくされた。そのため、予定されていた2回目のフィールドワーク調査は中止となった。1月18日に千葉市長が稲毛高等学校・附属中学校を訪問し、代表班によるプレゼンテーションが行われ、市長による講評の後、最優秀班が選ばれた。

・事業2 「SDGsリサーチプロジェクト」

昨年度に引き続いて、本事業では、自己の興味関心から主題を設定し、第1学年では研究計画書を作成し研究テーマの決定、そして第2学年の6月に中間発表会、12月以降第3学年の7月まで調査活動および探究論文の執筆を行い、探究論文を完成することを計画した。学問分野に応じて、10個のゼミナールを編成し、生徒は自己の興味関心をもとに所属を決めた。

・事業3 国際交流

新型コロナウイルス感染症の影響で例年のような活動ができなかった。そこで昨年度に引き続き、地域との連携やICTの活用によって、代替企画を計画・実施した。令和3年6月から12月にかけて、韓国の蔚山科学高校の生徒と、本校生徒の希望者でオンライン交流を行い、高校の生徒達は英語で自己紹介や気候変動の危機的状況に対する解決策や実践策について活発なディスカッションを行った。10月11日、12日には、普通科2年生（内部進学生）並びに国際教養科2年生が、東京のグローバルゲートウェイを訪問した。また国際教養科2年生は、昨年度に引き続き千葉大留学生との交流授業を複数回実施し、後述している探究活動の発表内容についての指導・助言を受けた。11月には、第2学年において希望者を募り、メロス言語学院とのオンライン交流を行った。

・事業4 海外語学研修

毎年実施している夏期語学研修、秋期語学研修が今年度はいずれも新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった。そのため、普通科2年生（内部進学生）、国際教養科2年生はSDGsと関連したグローバル課題を主題とする探究活動を行った。11月19日には、それぞれ在校生を主に対象として校内発表会を実施した。

・事業5 英語ディベート授業

ネイティブ講師を活用し、生徒を少人数単位で指導した。また部活動においては、ESS部が千葉県高等学校英語ディベート大会で第1位等となるなど、優秀な成績を収めた。

・事業6 グローバル講演会

8月に大学から講師を招聘し実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

・事業7 グローバル企業訪問

コンソーシアムの協力のもと、12月23日に成田国際空港株式会社を訪問した。世界を舞

台に活躍する企業を訪問し、普段訪問することができない企業の現場を目の当たりにすることで、学校での学習と自分の将来とを関連付けて考えることができた。またSMB C日興証券株式会社の見学会については、新型コロナウイルス感染防止のため、昨年度と同様、オンラインでの実施という形をお願いをし、令和4年3月に実施した。

・事業8 高大連携協定に基づく大学授業の受講について

高大連携協定に基づき、希望生徒が、千葉大学で実施された地域連携や国際理解に関する授業を受けた。参加した授業については校内で必要な単位として認定した。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

・総合的な探究の時間において、コンソーシアムの協力のもと、地元である千葉市の地域の課題を発見し解決する探究活動「千葉市創生プロジェクト」を行った。またSDG sなどのグローバルな課題と関連づけて自己で主題を設定し探究を行っていく活動「SDG s リサーチプロジェクト」を実施した。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

・各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱う。国語科では文章の作成について、社会科では探究活動について、外国語科では英語を使用した発表への作文指導、情報科では効果的な資料作成の指導等を行った。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制について

・校内の総合的な探究の時間検討委員会を中心に、教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進める。定期的に進捗状況を確認し、円滑に事業を進めることができる体制をより明確にした。

・上記に加え、「SDG s リサーチプロジェクト」を進めていくために、全校職員による「合同会議」を定期的に実施した。

・各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱った。（クロスカリキュラム等シラバスに記載）

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

・校内に主に各事業に関わる中心的な職員によって構成される地域との協働推進委員会を設置し、各事業の連絡・調整や外部との連携等を担い、学校全体で研究開発に取り組む体制を構築した。

・総合的な探究の時間検討委員会を中心に、全職員で連携をとり探究活動を推進し、「千葉市創生プロジェクト」および「SDG s リサーチプロジェクト」を実施した。また連絡調整のために、合同会議を定期的に実施した。第2学年については、海外研修が中止となったため、代替となる探究活動を国際交流部と連携し推進した。

・地域との協働推進委員会が中心となって、教務部と各教科、国際交流部、各学年団が連携して事業を進めた。

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

・探究活動やグローバル企業訪問等において、企業等との連携を随時図り、円滑に事業を進めた。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

・校内探究委員会において、定期的に進捗状況を確認するとともに、運営指導委員会やコンソーシアムからの指導・助言、高校魅力化評価システム並びに学校評価等を活用し、事業を改善した。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

・コンソーシアムの構築により、地域が求める人材像の共有化や実施プログラムの改善を図った。

・総合的な探究の時間における長期的なアドバイザーを、本校の探究活動に長年関わってくださっている専門家3名に依頼し、来年度の探究活動計画を指導・助言いただく体制を構築した。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

・運営指導委員会の構成員

千葉大学教育学部教授 藤川 大祐 氏

神田外語大学事務局長補佐 長田 厚樹 氏

放送大学教養学部教授 岩崎 久美子 氏

千葉市美浜区長 曾我部 穰 氏

明治大学文学部特任教授 藤井 剛 氏

・活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年7月8日（第1回） （オンライン開催）	第1回会合 ・これまでの取組の説明及び指導・助言 ・今後の事業の取組の説明及び指導・助言
令和3年10月18日（第2回） （オンライン開催）	第2回会合 ・本年度の取組の報告及び指導・助言 ・本事業終了後の取組の説明

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

・千葉市における探究活動を実施するとともに、海外研修においてフィールドワーク等をおして探究活動を行い、グローバルな視点を持つことができるようにしている。また、ネイティブ講師を活用し、先進的な外国語教育を実施している。

⑪成果の普及方法・実績について

・千葉市の広報紙に事業の取組について掲載し、千葉市民へ周知した。

・研修会で成果発表を行い、報告書を作成し関係機関へ配付する。

・千葉市教育委員会のWebページに、成果物を掲載する。

1 1 目標の進捗状況、成果、評価（＜添付資料＞目標設定シート）

- ・目標設定シートに記載した項目にそって今後整理していく。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

- ・生徒の主体的な課題意識の醸成は、依然として課題として認識している。生徒たちにいかに外の世界に目を向けさせるか、外の世界との関係が希薄な本校の生徒にとって重要な論点だ。ローカル且つグローバルな課題意識を育む活動を入れていく必要があるかと考えている。
- ・来年度も新型コロナウイルス感染症の蔓延は継続しており、こうした状況下で継続的にどのように代替的な活動を行っていくかは、稲毛高等学校・附属中学校に限らず大きな課題として残る。

・稲毛高等学校・附属中学校は令和4年度から千葉市立稲毛国際中等教育学校への移行が開始される。全員が6年間一貫教育を受け、全員が海外語学研修に参加することになるため、探究活動のカリキュラムも **Inage Quest** と名称を変えて、稲毛高等学校・附属中学校独自のものを作れるように現在計画している。そのため、本事業の指定自体は本年度で終わるが、稲毛高等学校・附属中学校の研究開発は、中等教育学校化の中で進められていくこととなる。

・**Inage Quest** を充実させるため「総合的な探究の時間」を専門に教える専任教員を校内に配置し、その職員が中心となって探究学習を進めていく体制を作る。具体的には「総合的な探究の時間」を時間割に組み込み、教科と同様に授業を行ったり、フィールドワークやプレゼンテーションなどの企画の立案などを行うなど、系統立てた指導体制を構築する。また、職員が指導する際、生徒に論理的な思考、統計、表現方法等を身に付けさせるため、探究学習に関する教科書や副教材を導入し指導にあたる。

【担当者】

担当課	学校教育部教育改革推進課	TEL	043-245-5914
氏名	藤沢 哲	FAX	043-245-5989
職名	指導主事	e-mail	akira0691@city.chiba.lg.jp